

LEADERSHIP CHALLENGE

大隈塾LCレポート vol.3

第3回目の大隈塾リーダーシップ・チャレンジは6月21日（土）22日（日）、ANAインターコンチネンタルホテル東京で行われました。



初日1限目は、内田和成先生のケースメソッド。「あなたは東京ディズニーリゾートの経営者です。今日は2011年3月23日、東日本大震災から10日ほど経過したところです。被災地の復旧の目処はたっていない。福島第一原発の放射能汚染の問題はますます深刻さを増しているようにみえます。さて、あなたは東京ディズニーリゾートをいつ、どのようなかたちで再開するか、意思決定してください」。4つのグループに分かれ、30分

グループディスカッション、60分クラスディスカッション、30分講義「リーダーのものの見方考え方」。120分があつという間に過ぎました。

【受講生のレポートより】

・同じ論点で考えながらも、塾生それぞれが違う答えに至ったのが興味深かったです。それぞれの信念が出たということでしょう。私自身はTDRの理念を見て判断したのですが、それは正解を求めたのであって、自分の解ではなかったのかもしれないと後で思いました。

・事実認識→考慮すべきファクターの洗い出し→判断基準の優先順位付け、という流れは言われてみれば当然だが、日常の経営判断においてはなかなか体系的に実践できていない事を痛感した。

・ケースメソッド開始前の「意思決定とは捨てることだ」というアドバイスが大変心に響いた。それは全ての利害関係者を満足させることは出来ないのも、何を捨てるべきかを決めるということであった。「捨てる」視点から発想することにより、少し気が楽になり、どうすべきかという論点に集中できるようになったと思う。

2限目は島田久仁彦先生の「交渉術」。実際にコソボやバクダッドで国連紛争調停をしていた島田先生には、交渉術の基本を講義していただきました。この基礎をもとに、8月の「交渉術ワークショップ」で実践力をつけていきます。



【受講生のレポートより】

・当初、「交渉術」というと少し大上段に構えたレベルの話になるのではないかという印象を持っていた。本を読み講義を聴いて、基礎となる所や、抛り所になる所は、相手と信頼関係を構築してコミュニケーションをすること、というのが印象的であった。

・グループのディスカッションの中で、「ここまで計算ずくで人に接する事はしたくない」という主旨の発言があった。確かに「腹を割って話し合う」という日本人のスタイルにはあまり馴染まないのかもしれない（ちなみに「腹を割って」に相当する簡潔な英語表現は見当たりません）。

・リーダーとしては常に冷静に客観視することが重要であり、感情などのセルフコントロールは必要不可欠

と感じた。まだまだ感情コントロールはムラがあるので、改善課題としたい。

・ネゴシエーターの世界もビジネスフィールドも改めて、「人脈」と「情報」が重要であると感じた。社内はもとより、社外での人脈構築も力を入れていきたい。

2日目の1限目は、キャノングローバル戦略研究所の宮家邦彦さんと伊藤弘太郎さん。これも7月の「政策シミュレーション：海外における邦人救出」に向けて、世界情勢の読み方を講義し、実際にミニゲームを行いました。首相官邸、外務省、警察庁、総務省の役割を与え、「福岡にある韓国領事館がなにものかによって爆破された」という条件でシミュレーションしてみました。

【受講生のレポートより】

・「パワー」というものの存在とその力の有様を地図（二次元）に落とし込むことで非常にわかりやすい説明であった。さらに時間軸を加えることで、より具体的に理解できた。



・宮家先生の、「経済人には政治的感覚が足りず、政治家には経済的感覚が足りない」という指摘は、現状を言い表しており、その必要性を痛切した。

・国家の戦略は地理と歴史に依存する。パワーの空白・真空が新たな矛盾や紛争を生む。パワーは 内政・地域情勢・国際情勢に依存する。地理によって安全が保障されていない国は200%300%の安全保障を望む。

・企業の海外戦略の立案にあたって、ど

ちらかというとその国の内政や経済環境またはその地域の状況を踏まえて戦略立案を行なってきたが、地政学的な観点で見ると全く違う価値観でその地域を見ることができる。

最後は、田原総一郎塾頭。「今なぜ哲学が必要なのか」。3回目にしてようやく塾頭の登壇となりました。体調不良があったとはいえ、大変失礼いたしました。



【受講生のレポートより】

- ・朝まで生テレビの内容と当然似ており、なんとなく聞いたことある話だった。
- ・哲学、天皇の話から、日本人の特徴の最たるものが「グレーゾーン」であり、そのグレーゾーンが極めて国際的には、わかりにくいものであることを理解しました。はっきりさせる癖をつける必要がある。
- ・グローバル化を標榜する上で、日本流を押し通すのではなく、日本と海外の違いを認識し、グローバル経営に不向きな部分は変えていくことがキーポイントになると思う。その変えるべき部分が、「なぜ」を考えること、「曖昧さは海外では通じない」であると思う。何を変えたらよいのかを自問自答していたので、本日の講義から多くの示唆を得た。



大隈塾リーダーシップ・チャレンジレポート vol.3

2014年7月8日発行

大隈塾事務局（一般社団法人ストーンスープ）

村田信之 mura@ta2.so-net.ne.jp

169-0051 東京都新宿区西早稲田1-9-19 アーバンヒルズ早稲田207

tel:050-3558-7527 mail:stonesoup1010@gmail.com